

事前評価書

- 1 事業名 特定農業用管水路特別対策事業
地区名 茶屋後地区
- 2 事業概要
(1)位置 名古屋市
(2)規模・内容 用水路工 L=1.8km
(3)予定期間 平成20年度 ~ 平成25年度
(4)事業費(千円) 210,000 千円

3 必要性

本地区の用水路は昭和50年代の初期に水田かんがいを対象にパイプライン化されているが、当時は経済性・施工性の観点から幹線部については石綿セメント管で施工されている。しかしながら、近年においては施設の老朽化に伴う破損等もみられ、将来的には農業者等の健康を害するおそれも懸念されている。このことから、これら石綿セメント管を全て塩ビ管等に更新することにより、農業経営の安定を図るとともに石綿に起因する影響を未然に防止するものである。

4 事業効果

(1)費用対効果(B/C)の総括

区 分	数 値	算 式	説 明
基準年度	H19	—	
総事業費	210,000千円	①	基準年における総費用(C)
事業費	210,000千円	—	
関連事業費	—	—	
年総効果額	12,748千円/年	②	内訳は(2)表
廃用損失額	—	③	
総合耐用年数	30年	④	評価期間(年数)
還元率× (1+建設利息率)	0.0601	⑤	
妥当投資額	212,113千円	⑥=②÷⑤-③	基準年における総便益(B)
投資効率	1.01	⑦=⑥÷①	費用対効果(B/C)

(2)年総効果額の総括

(単位：千円)

効果項目	区分	年 総 効 果 額	説 明
農業生産向上効果		—	
作物生産効果		—	
農業経営向上効果		610	
維持管理費節減効果		610	
生産基盤保全効果		9,017	
更新効果		9,017	
安全性向上効果		3,121	
安全性向上効果		3,121	
計		12,748	
廃用損失額		—	

5 事業をめぐる社会情勢

本地区の幹線用水路は昭和50年代の初期に石綿セメント管で施行されているが、近年では老朽化に伴う破損等もみられ、将来的には農業者の健康を害するおそれが懸念されている。このような健康被害を未然に防止するため、石綿セメント管の改修に対する地元の期待は大きい。

6 その他特記事項

特になし